

キケロ・プロジェクトの概要

トッパンとヴァチカン教皇庁図書館は、共同研究プロジェクト「キケロ・プロジェクト」の推進において合意し、2005年1月17日に共同研究契約書調印を行いました。

背景

トッパンは、2000年に創立100周年を迎える記念事業の一環として、東京小石川に「印刷博物館」を設立し、その設立準備期間から、ヴァチカン教皇庁図書館が所有していたグーテンベルク42行聖書（ヴェラム版、6葉欠）の修復および高精細デジタル画像化を進め、2000年に共同で完成させました。ここから同図書館との文化的交流が始まり、印刷博物館が開館後も、2001年夏には「ヴァチカン教皇庁図書館展」を開催するなど、文化的・学術的交流を深めてまいりました。

これらの経緯から、2003年秋より共同研究の可能性について協議を重ね、今回の合意に至りました。

【今後の展開】

今後、3年間に亘り、パリンプセストに隠された文字や画像の読み取り機器の開発、読み込まれたデータの解析ソフトウェアの開発、解析された文字や画像の解読、またこれらの文字や画像をデジタルデータとしてアーカイブ化し、それを研究し出版します。



ジャン=ルイトーラン 聖ローマ教会尚書長枢機卿(右)と
凸版印刷株式会社 代表取締役会長 藤田弘道(左)
© 2005 TOPPAN PRINTING CO.,LTD.

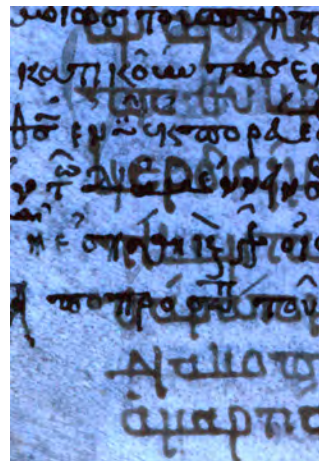
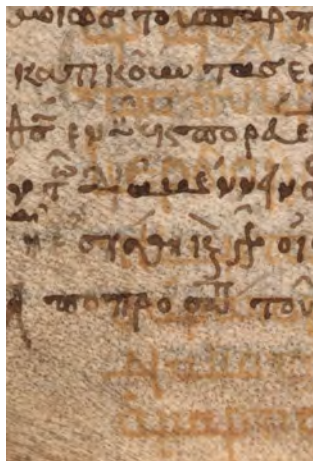
キケロ・プロジェクトについて

パリンプセスト (Palimpsest) とは、何度か上書きされた羊皮紙（特殊処理された動物の皮）の写本のことです。丈夫な紙がまだ普及する以前は、羊皮紙が一般的に使われていましたが、羊皮紙は大変高価なものであったため、不要となった書き文字を洗い流したり削ったりしてから、その上に新たな文字を書いていた。

消された文字には何百年あるいは何千年も前の重要な古文書があった可能性があるため、パリンプセスト解読を目標とする今回のプロジェクトは大変重要です。

しかし、消された文字を肉眼で解読するのは困難です。これまでパリンプセストを解読するためには、化学薬品や紫外線を使用していましたが、これらはパリンプセスト自体に負担がかかり解読する人の健康にも有害であり、作業工程には長い時間を必要としました。そのため解析時間を短縮し、パリンプセストや人にやさしい解析方法を開発するために「キケロ・プロジェクト」を発足しました。

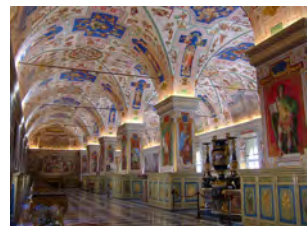
「キケロ・プロジェクト」は、ヴァチカン教皇庁図書館の所蔵する、200冊以上の上書きされた羊皮紙の古文書の復元を目指します。トッパンはこのプロジェクトのパートナーとしてヴァチカン教皇庁図書館の持つ写本と古文書分野の専門的知識をもとに、画像識別技術・デジタル化技術を駆使し、トッパンが独自に開発した専用機器を用いて写本に負担をかけることなく古文書の復元を推進します。



パリンプセスト比較写真(左:白色光画像 右:紫外線画像)
© 2005 Biblioteca Apostolica Vaticana



ヴァチカン教皇庁図書館



シストV世の間